

令和元年度第1回えりも地域ゼニガタアザラシ保護管理協議会

議事概要

令和元年8月5日（月）16:00～17:00

会場：えりも町林業総合センター

議事1 今年度事業の実施状況について

○事務局より資料1「事業実施状況（速報）」に基づき報告。

- ・忌避装置についてはこれまで被害軽減の面からはっきりとした効果が判断しづらい状況であったことから本年度春期も実施した。装置稼働の有無にかかわらず被害が少なく効果が判断しづらいが機器設置中の目撃情報によると多少の効果があるかも知れない。
- ・防除用格子網については魚種の変動に併せて角目を採用。被害量割合は少ない状態であり、今回はサバ・カレイ類の漁獲が多く総体漁獲量は増加した。
- ・本年度春期補捕獲は33頭の捕獲（うち定置網13頭、刺し網19頭）となった。

◆主な意見等

- ・超音波忌避装置は何年やったら結果が出るのか。（漁業者）
→もう3年目になるが、確かになかなか良い結果が出ていない。一昨年、昨年と特に魚が少なかったという状況もあることから、この秋もう一回やらせてもらい、そこで何らかの結論を出さなければいけないと考えている。（事務局）
- ・問題はこの音波がゼニガタアザラシに効くか効かないかではないのか。（漁業者）
→ゼニガタアザラシでも、効く個体、効かない個体と個体差があると思う。まだどういう効果があるかということがはっきりとわかっていないので、もう少しだけやらせていただき、サケが大量に来ているときにどういう効果があるかというのをきちんと見るのが重要。（事務局）
- ・沖も陸も全部に忌避装置を付けてみればいい。（漁業者）
→沖、陸と両方付けてしまうと、それが忌避装置の効果で被害が少ないのかどうかの評価できないので対照としたい。この件については個別に相談させてほしい。（事務局）

議事2 令和元年度（2019年度）事業実施計画（確定版）（案）について

- 事務局より資料2「令和元年度（2019年度）環境省えりも地域ゼニガタアザラシ管理事業実施計画（確定版）（案）」に基づき説明。
- ・現在暫定版として運用している実施計画について先の科学委員会での議論を踏まえ、当

初計画の年間40頭の捕獲数を80頭へ引き上げ、次年度以降の捕獲数を50頭とした。

- ・捕獲に当たっては定置網に執着する大型個体を中心に捕獲し、計画捕獲数に満たない場合は次年度に繰り越す等柔軟に対応する。

◆主な意見等

- ・今の網については、網についているアザラシがちゃんと捕まっているとのことだが、決まった網に付けておくと学習効果が出てしまう。皆さんの協力が得られるなら、ランダムに捕獲網を設置すればアザラシがパニックを起こすはずなので、これも地元の方と検討していただければと思う。(座長)
- ・去年は定置の捕獲網でアザラシが獲れ過ぎて途中で止めたが、定置に被害があるアザラシがせっかく捕獲網で獲れているのに中止にしては何も意味がないのではないかと。(漁業者)
- 一昨年の状況を踏まえ、刺し網である程度獲った上で秋捕獲に臨んだが、思った以上によく獲れたために捕獲予定数を上回り、途中で捕獲中止する結果となった。(事務局)
- ・検討委員会で話を聞いていると「種の保存」ということが主になっているような感じがする。
- ・去年、捕獲網で獲れたということであれば、1ヶ統で試験してそれだけ成果があるのなら、えりも岬の3ヶ統と東洋の2ヶ統を合わせた5ヶ統で集中的にやればいい。(漁業者)
- 我々としてもそういうことを考えており、例えば漁協に調整してもらい、被害があるときに集中的にそこに数日間なり設置して、被害を与えている個体を取り除くというやり方もいいのではないかなと思っている。(事務局)
- ・アザラシが来たから網を入れるということなら、最初からやればいい。例えば3ヶ月なら3ヶ月、5ヶ統で付けっぱなしにしておいたら、去年のデータでいったら大きいだけでも40頭もいくということだろう。(漁業者)
- 漁場のご判断もある。捕獲網を付けるとどうしても入ったあとアザラシが魚を食ってしまうこともあるため、網を犠牲にしてしまう部分もある。そこは状況次第だと思っている。(事務局)
- ・スリットの付け方について、魚が大量に来ている朝と晩にやってみるといい。結果は絶対出るはず。(漁業者)
- 今年は漁獲量が良くなるという予想も出ているので、2回起こしもあるようなときに、そういう形もぜひ試せたらいいと思っている。まず網の貸し出しなどの部分から検討・相談させてほしい。(事務局)
- ・獲れたアザラシの胃の内容物を見れば、頭だけではなく全部食べているはずなので、その食害の量がどれぐらいかという見積もりも必要だ。そのサンプルが80頭分あればか

なりデータが取れるので、それは是非やってほしいと思う。(座長)

- ・本年度の事業実施計画、異議なしということで進めてよろしいか。(座長) (異議なし)
- ・秋の詳細な事業については定置部会の場で説明願いたい。(漁協)

議事3 次期管理計画の検討について

○事務局より資料3-1「次期管理計画改定のポイント及び改定スケジュール(案)」及び資料3-2「管理計画の評価及び次期計画への記載事項整理表(案)」について説明。

- ・現行計画は令和2年3月末までの計画期間であり、次期計画改定作業を本年度中に完了させる必要がある。
- ・計画の大幅変更はせず、ポイントとなる項目については現状の取り組みを評価し、次期計画へ反映させることとする。

◆主な意見等

- ・漁業被害の軽減がどのようになっているのかを測るのに、どういう方法が一番いいのか、科学者のほうからも、どういう調べ方・算出の仕方で被害が減っているとなるのか、そのあたりのことを議論してもらい、次期計画に反映させてもらえばありがたい。(漁協)
- 科学委員会の中でも、被害というものをどのように捉え、それがどうなったときに改善と見るのかという指標や物差しが必要だろうと考えているところ。(事務局)
- ・道からサケの種苗200万粒を1月の策定会議外で頂いている。続けていきたいが、これは単年度の支給だ。これからの分を道と道増協(公益社団法人北海道さけ・ます増殖事業協会)にお願いする形になるが、この管理計画案が5年ということになれば、「いつまで」と言われた時に我々としては答えることができる。(漁業者)
- ・計画期間が長いほうが良いという趣旨で了解。(事務局)
- ・次期計画では大定置に固執している大型のゼニガタアザラシ年間50頭の捕獲を目指すということになっているが、計画は50頭でも、4年なり5年やったとき、この50頭は随時、検証しながら変更できるものという解釈で考えていいものか。(漁協)
- 科学委員会でも既に、50頭はあくまでも基準であって、被害の多寡によって、個体数の多さ・少なさによって、この数は変動する。(座長)
- ・問題は現在のアザラシの頭数だが、何頭いるのか。(漁業者)
- 大まかに1,000頭位いたのを、今、850頭位までは減らしているが、幼獣ばかり獲っていたためこっちが想定しているよりも減りが緩やかだったということがあった。このペースで獲っていったら近い将来800頭に近づくだらうというのがこの流れである。(事務局)
- ・獲る数に関しては、漁業被害の状況等も見つつ、皆さんの意見もお聞きし、調整をしない

がらやっていきたいと思っている。(事務局)

- ・今、幼獣を主に捕獲しているなら、4年後、5年後になったら個体数が減少してくるということではないのか。(漁業者)

→幼獣に関しては、1年目の中で死んでしまう確率が高いので、本来なら死んでしまう個体も獲ってしまい、それを数に入れていたということがあった。今、幼獣の捕獲状況も加味しシミュレーションした結果を踏まえて、80頭と考えている。(事務局)

- ・すぐに結果が出ないのだから、4年後、5年後のために幼獣を獲ればいいのか。(漁業者)
- ・ゼニガタアザラシの個体数が少なくなってレッドリストに載せたとしても混獲はある。また、800頭を維持したとしても、何かの病気がきたら多くても少なくても同じ。(漁業者)

→恐らく少ない頭数でも普通の状態であれば、そのまま維持されると思うが、アザラシの疫病が発生した場合に、半数位が死んでも絶滅しないというリスクも踏まえた上での絶滅確率ということを考えている。(事務局)

- ・シミュレーションがどうであれ、食害をメインとしてやってもらわないと困る。(漁業者)
- ・幼獣ばかり獲っても、親が生きていたら出産し続けるので、やはり成獣を捕獲しないと極端に減ることにはならない。(漁業者)
- ・まず、亜成獣から成獣が定置網につくということがわかってきたので、まずこれを獲ってみて、どれぐらい獲れるか、それからどれぐらい被害が減るかというのをきちんと出した上で、また議論したいと思う。(座長)